

獨協医科大学日光医療センターリハビリテーション部
レジデント教育プログラム

第1版 2022年6月23日 策定
第2版 2024年2月27日 改訂
第3版 2025年1月11日 改訂

I 教育理念

1. 若手療法士に良好な臨床研修の場を提供する
2. 急性期医療において多くの臨床経験を積み、リスク管理およびクリニカルリーズニングのスキルを高めるとともに、効果的かつ効率的な理学療法・作業療法等を自立して実施する能力を涵養すること

II 研修目標

- (1) 社会から求められる、人格に優れた療法士となること
 - (2) 患者側に立って思考・行動する姿勢を持つこと
 - (3) 他の医療スタッフと協調しチーム医療を円滑に遂行できること
 - (4) 常に医療の安全に配慮できること
 - (5) 幅広いプライマリケアの診療能力（態度・技能・知識）を修得すること
 - (6) 問題を発見・解決するとともに、その成果を社会に発信することができること
- これらの目標を達成するために病院の各部署と連携し、リハビリテーション部全体として教育に取り組み、メンターは自覚と責任をもってレジデントを指導し、知識・技術レベルに応じた責任を課す

III 行動目標

- (1) 患者－リハビリテーションスタッフ間の人間関係
患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立する
 - 1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる
 - 2) 医療スタッフ、患者・家族がともに納得できるリハビリテーション計画を立案し実行できる
 - 3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる
- (2) チーム医療
医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のスタッフと協調する
 - 1) 上司および同僚、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる
 - 2) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる
 - 3) 患者の転入、転出にあたり情報を交換できる
 - 4) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる
- (3) 問題対応能力
患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける
 - 1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる（EBM=Evidence Based Medicine の実践ができる）
 - 2) 自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる
 - 3) 臨床研究の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ
 - 4) 自己管理能力を身につけ、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める
- (4) 安全管理
患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ危機管理に参画する
 - 1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる
 - 2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる
 - 3) 院内感染対策（Standard Precautions を含む）を理解し、実施できる
- (5) 症例呈示
チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例提示と意見交換を行う
 - 1) 症例呈示と討論ができる
 - 2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する

(6) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価する

- 1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）の作成に参画できる
- 2) 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる
- 3) QOLを考慮にいたれた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む）へ参画する

(7) 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会へ貢献する

- 1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる
- 2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる
- 3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる
- 4) 日光ヘルスケアネットを理解し、地域における役割を果たす

IV プログラム責任者

プログラム責任者：安 隆則（統括管理者）
副プログラム責任者：田村 由馬（リハビリテーション部 技師長）

V 臨床研修協力施設：

友愛クリニック
研修実施責任者：下山正博（日光医療センター心臓血管腎臓内科 非常勤講師）
研修指導者：友愛クリニック理学療法士

VI 研修期間

2年間（ただし大学院教育を受けるものは1年延長可能）
到達目標・人間関係能力・リスク管理能力・リハビリ実施能力・教育・研究能力について、目標を定め、それぞれについて半期ごとに自己評価、メンター評価を実施する。

(研修プログラムの例)

獨協医科大学日光医療センター リハビリテーション部（理学療法士）レジデント研修スケジュール（2022/6/22）																											
		1年目（4月～翌年3月）												2年目（4月～翌年3月）													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
オリエンテーション・施設見学																											
手術見学																											
部内担当ローテーション（パターン1）		心臓リハビリ						運動器						呼吸器				脳・廃用・がん			希望ローテ						
部内担当ローテーション（パターン2）		運動器						心臓リハビリ						脳・廃用・がん				呼吸器			希望ローテ						
管理業務	カルテ管理																										
	医事管理																										
	リハビリ機器管理・物理療法																										
対患者の業務	接遇																										
	リスク管理																										
	トランスファーテクニック																										
	リハビリテーション実施計画																										
	退院時指導																										
	臨床業務における技能習得																										
座学研修	講義研修（リハ・医局・他部門）																										
	新人発表（栃木県士会）																										
	臨床研究（学会発表・論文等）																										
対象となる認定試験	心臓リハビリテーション指導士																										
	腎臓リハビリテーション指導士																										
	呼吸療法認定士																										

VII レジデントの指導体制

メンター・メンティー制度
指導者（メンター）が1年目レジデント（メンティー）と、2年目レジデント（メンティー）を指導するが、2年目レジデントは1年目レジデントの教育にも参加する
レジデントは半期に一度、クリニカルラダーによる到達目標評価を自己評価し、メンターによる評価・フィードバックを受ける。

VIII レジデントの処遇

- (1) 身分
嘱託職員：1年ごとの契約更新 最長2年
在任中に大学院進学の場合、1年の延長可（最高3年まで）
- (2) 給与
当院規程による
- (3) 勤務時間
8：45-17：00 4週8休制度
＊月1~2回の休日出勤あり
- (4) 休暇
年次休暇（有給） 15 日（1 年次）、17 日（2 年次）
＊5日間のフレックス休暇を含む
＊1年目は5月1日より支給
冠婚葬祭時に必要な特別休暇あり
- (5) 加入保険
日本私立学校振興・共済事業団（健康保険・年金）
雇用保険、労災保険

IX 研修内容

(研修内容の例)

実務研修 (臨床)	患者の評価治療	25～30 時間／週	領域別疾患経験数（主担当）の基準 一般病棟、HCU、心臓リハビリ等 脳血管疾患 ：10 例／年 運動器疾患 ：60 例／年 呼吸器疾患 ：30 例／年 心大血管疾患：60 例／年 廃用・がん疾患 ：20 例／年 ＊定期的に臨床経験数の報告を行う
	メンターと共に患者を治療する ("mentored session")	5 時間／週	
	チーム医療に参加する (カンファレンス、回診等)	5 時間／週	
講義研修 (教育)	1. レジデント向け部内研修 2. 論文抄読会 (Journal Club) 3. 症例検討会 4. 研究セミナー 5. 病院経営・診療報酬研修会	5 時間／週	病院のインフラ（研修医オリエンテーション、看護部合同研修、院内セミナー等）を活用する
学術研修 (研究)	1. 症例報告 2. 学会発表 3. 論文投稿	1 回／年	

XI 教育スケジュール

		領域	項目	自己評価	指導者評価	指導者サイン
1年目	レベル1 (1-6ヶ月)	人間関係能力	社会人としてふさわしい身だしなみ、言葉遣いができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			時間、規則を守ることができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			職員に対し、礼儀正しい行動・態度を取ることができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			公私の区別をつけることができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者などに必要な事を報告・連絡・相談できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		リスク管理能力	医療安全マニュアルを理解する。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			感染症防止マニュアルを理解する。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			クレーム・暴力対応マニュアルを理解する。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			インシデントレポートの記載方法を理解し、作成できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			アクシデント発生時の対応を理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			BLSを理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			バイタルチェックを行うことができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		リハビリ実践能力	病院内でのリハビリテーション技術部の役割を理解する。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			リハビリテーションに関わる診療報酬について理解する。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			リハビリテーションにおける実施手順を理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			電子カルテより必要な情報を収集できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者の下、総合実施計画書などを作成できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者の下、一般病棟の患者の評価を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者の下、一般病棟の患者の治療を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者の下、一般病棟の患者の移乗を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者の下、一般病棟の患者の移乗を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者と共に、カンファレンス・回診に参加できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			カンファレンス等で積極的に質問等を行うことができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		教育・研究能力	急性期医療プログラム（導入）を理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			急性期医療プログラム（脳血管疾患）を理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			急性期医療プログラム（運動器疾患）を理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			レジデントプログラムに参加できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			院内の勉強会に積極的に参加し、自己学習できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			自分の担当患者についてまとめ、症例報告を行うことができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		人間関係能力	守秘義務を果たすことができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			患者・家族に対し、礼儀正しく適切な行動・態度をとることができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者などに的確な報告や情報提供ができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			医師・看護師と適切なコミュニケーションを取ることができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		リスク管理能力	医療安全マニュアルに基づき、安全対策を実践できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			感染症防止マニュアルに基づき、感染対策を実践できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			クレーム・暴力対応マニュアルを実践できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			インシデントレポートを積極的に作成できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			病棟看護師等よりリハビリ前に患者の状況を確認することができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			一般病棟の患者が、リハビリを行える状況であるかどうかを総合的に判断できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		リハビリ実践能力	1人で総合実施計画書などを正確に作成できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			1人で治療記録をカルテに記載できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			1人で一般病棟の患者の評価を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			1人で一般病棟の患者の治療を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			1人で一般病棟の患者の移乗を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者の下、カンファレンス等で症例発表ができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		教育・研究能力	急性期医療プログラム（呼吸器疾患）を理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			急性期医療プログラム（心大血管疾患）を理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			急性期医療プログラム（がん疾患）を理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			急性期医療プログラム（廃用症候群）を理解できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			院外の勉強会や学会に積極的に参加し、自己学習できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			新人発表を行える。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
2年目	レベル3	人間関係能力	患者・家族に対し、礼儀正しく適切な行動・態度をとることができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			周囲の患者にも目を配り、緊急時に適	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			重症部門の患者の危険を予測し、指導者の下、安全対策が実施出来る	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		リスク管理能力	対象患者に合わせて危険を予測し、安全対策が実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者の下、重症部門の患者の治療を実施で	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			周囲の患者にも目を配り、緊急時に適切に対応できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			重症部門の患者の危険を予測し、指導者の下、安全対策が実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		リハビリ実践能力	指導者の下、重症部門の患者の評価を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者の下、重症部門の患者の治療を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			指導者の下、重症部門の患者の移乗を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			重症部門の患者・家族に対し、医療チームの	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		教育・研究能力	後輩への教育に参加できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			自己の課題を発見できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			自己の課題に対して資源を活用し、積極的に課題に取り組むことができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
	レベル4	人間関係能力	重症部門の患者・家族に対し、医療チームの一員として応対できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		リスク管理能力	重症部門の患者の危険を予測し、1人で安全対策が実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			重症部門の患者が、リハビリを行える状況であるかどうかを総合的に判断できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		リハビリ管理能力	1人で重症部門の患者の評価を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			1人で重症部門の患者の治療を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
		教育・研究能力	1人で重症部門の患者の移乗を実施できる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			カンファレンス等で積極的に質問等を行うことができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			後輩の研究・症例報告に対するアドバイス行えることができる。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	
			自己の課題に対して学会発表を行える。	3 2 1 NA	3 2 1 NA	

